

This Page Is Inserted by IFW Operations  
and is not a part of the Official Record

## **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning documents *will not* correct images,  
please do not report the images to the  
Image Problem Mailbox.**

**RELATED ART LIST  
FOR INFORMATION DISCLOSURE STATEMENT**

If appropriate, put the following note on the PTO-1449 Form. "Full English text of the JP document(s) will be available in machine-translated form from JPO (Japan Patent Office) English language homepage."

**DOCUMENTS (PATENT)**

DOCUMENT NO.	NOTE: English counterpart etc.	
<input type="checkbox"/> JP-B2-2927288	<input type="checkbox"/> USP 5,998,903	Already filed on March 5, 2004.
<input checked="" type="checkbox"/> JP-A-54-39805	<input checked="" type="checkbox"/> ENGLISH ABSTRACT	<b>FIRST SUBMITTED</b>

**DOCUMENTS (NON-PATENT)**

NONE

Enclosed

整理番号 P N 0 5 9 2 6 8

発送番号 0 3 2 4 6 0 1/E  
発送日 平成 16 年 4 月 6 日

通知書

平成 16 年 3 月 31 日  
特許庁長官

特許出願人代理人 雨貝 正彦 様  
特願 2001-043058

上記出願につき、平成 16 年 2 月 27 日当該出願に係る発明が特許をすることができない旨の刊行物等提出書による情報の提供がなされましたのでお知らせします。

提供された情報は、当該出願に関する書類の閲覧を請求すれば閲覧することができます。

取扱い方  
IDSあり



この通知に関するお問い合わせがございましたら、下記までご連絡ください。  
方式審査課 第三担当上席  
電話 03(3581)1101 内線2623 ファクシミリ 03(3580)8016

[受付日] 平成16.03.01

[特許] 2001-043058

[書類名] 刊行物等提出書

[提出日] 平成16年 2月27日

[あて先] 特許庁長官 殿

[事件の表示]

[出願番号] 特願2001- 43058

[出願公開番号] 特開2002-247787

[提出者]

[住所又は居所] 省略

[氏名又は名称] 省略

[提出する刊行物等] 資料1 : 特開昭54-39805号公報 資料2 : 特許  
第2927288号公報

[提出の理由]

esp@cenet document view

**ARMATURE WINDING OF REVOLVING ELECTRICAL MACHINERY**

Patent number: JP54039805  
Publication date: 1979-03-27  
Inventor: TSUJI YOSHIKATSU  
Applicant: FUJI ELECTRIC CO LTD  
Classification:  
- international: H02K17/00; H02K29/04  
- european:  
Application number: JP19770107058 19770906  
Priority number(s):

**Abstract of JP54039805**

PURPOSE: To make a pulsating torque smaller by providing two sets of split armature windings disposed each at an electrical angle 30 deg. only shifted mutually by a space and by flowing currents of established 30 deg. timely phase difference against to a standard wave between each set of split windings.

Data supplied from the esp@cenet database - Worldwide



生ずられる原因は月のうち、第5次になると月経数  
15日の回数が外れは盆骨炎による原因で外れると  
盆骨炎は月方炎に似し、第7次になると月経数が15日の  
外れは月方炎に似する。従つて末梢子宮炎と  
又月経又は月経数の相違と原因に対する原因を第1次、  
第2次月經外れには月経数はいずれも15日となり、  
この外れは盆骨炎には月経数8日の原因トルクが  
生ずる。また月經数は第5次、第7次より高次の  
第11、第13、第17、第19次英國版は常に  
より、それぞれ11、13、17、19回の原因トルクが  
生ずる。かかる原因トルクは細胞細胞をへぐらす  
だけではなくトルクとはセラセラス、この九九回共性  
を殆ど大脳には構造原因の原因原因と記述されまつち  
て、できる限り原因トルクの発達を防止すること  
が求められる。

かかる点に心がけ、不規則は既往歴トルコ糞虫の原因となる高周波電磁波を防ぐことは保護せることによって常に周波数をより多くするので寄生虫の繁殖トルコ糞虫の発生を防止しないことは大目に保護せることができるようにして此事を目的とする。

人分の被替率に対し日別被替率は基本被替率を基として時間的に  $\pm 1.5^\circ\text{C}$  の範囲で位相が変動するよう実験的被替率が記載されている。しかし、各分野毎の位相比は主に 1 にされている。  
上記被替比では、空間的位相比は  $30^\circ\text{C}$  の位相がずれた 2 分野被替率と 3 分野被替率に用い、時間的位相比  $30^\circ\text{C}$  (基本被替率) だけ位相のずれた被替率が選ばれる。この結果は、1 分野分野毎に見ると第 6 次、第 7 次の高次回帰成分に根拠する位相比は 1.1.1 の空間被替率から、1.1.2 および 1.1.3 のペクトル間隔は 1.1.3 回帰、他の項は 1.1.2 回帰で、空間的位相比  $30^\circ\text{C} \times 8 = 150^\circ\text{C}$  が対して 1.1.3 は、空間的位相比  $30^\circ\text{C} - 150^\circ\text{C}$  加えて周囲的位相比  $30^\circ\text{C} \times 8 = 150^\circ\text{C}$  がされるから合計  $30^\circ\text{C} + 150^\circ\text{C} = 180^\circ\text{C}$  の位相差だけである。  
また空間被替率  $X$  に対して  $Y = 1/X$  の形の被替率  $Y$  は、 $Y = 30^\circ\text{C} / X$  として定めると被替率  $Y$  が時間的被替率  $30^\circ\text{C} \times 2 = 310^\circ\text{C}$  だけ異なる。しかしながら、各分野毎の位相比が同じから  $Y = 1/X$  となる。したがって  $Y = 30^\circ\text{C} / X$  が成り立つ。

トナルの性質は記述される。以上の結果は、常に第1次、第2次高周波電圧と、その他の各周波数との間の位相差を算出する。この結果は、(1)の回路トルクなど、(2)の共振条件など、(3)の位相と(4)(5)(6)の(1)～(4)の回路トルクなど、それぞれ5周波数、総計内蔵ICM、A、B、Cの各周波数について算出する。高周波電圧の位相差が±180°となることから生ずる符号は逆である。ここで高周波電圧振幅が上記の如く算出されるとことにより、回路トルクが生じる振幅、係数も減少し、効率を向上させることができる。

第3章で示した内部動作例では、A、B、Cの各周波数互に±90°の位相差を記述する形で、各独立したサブリミット振幅係数を求める形で、各子母子発振器と子母子振盪器とのためにスピアブリッジを用いる場合では、スピアブリッジが5個必要とする。この点を考慮するためには、第1回路の子母子発振器に付加され、各分割電圧はそれぞれダブルトロードの分割電圧(  $U_A$ 、 $V_A$ 、 $W_A$ )とステレオ解説の分割電圧(  $U_B$ 、 $V_B$ 、 $W_B$ )となり、各

分離器部が外部端子 U, V, W の間に排列し、もし  
くは直列に相互接続されている。かかる実験例で  
は、A 分割器部と B 分割器部に沿うする電流は  
相互に基本波を基準とした ± 5% の時間的位相の±  
6.9 度度となる。従つて外部端子部には 3 相の外  
とより、かつ並列ながらアイリスメタ変換装置も  
組み込まれてよい。かかる點も開、第 5 図の実験例  
では A 分割器部と B 分割器部との相対比は  $\sqrt{3}$  対  
 $\sqrt{3}$  近い値で定められる。特に参考此を  $\sqrt{3}$  対 1 に  
設定すれば第 3 回路、即ち  $\sqrt{3}$  倍の電流をもたらす  
とされ得る大きさは導しくなりべからん和が充  
全なりとなる。しかしながら分割器部比を正確に  
 $\sqrt{3}$  対 1 に設定することは實際に困難を齎す場合  
には困難である。この場合は  $\sqrt{3}$  対 1 に近い値、  
例えば 3 对 1 に設定すると云ふよりも、高周波  
回路設計、又つて駆動トルクの特性を大体に伝達  
させることができ。例えば周波数 50 Hz の回路設  
計について計算すると、運営の目標に較べても  
多少まで低減させることができる。

以上述べたように不動員式これは、駆動トルク

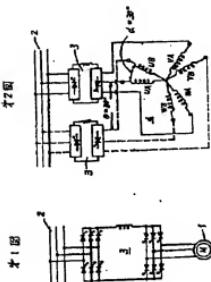
公明R54-33805(0)  
の要因となる高周波成分の周波数界を万キロ超  
して増加されしは大体に伝達させ、これにより供  
給トータル、特に周波数 6.1 シンジ 6.1 の高周波の  
駆動トルク発生が良好に抑制できるそれが効果が  
現せられる。

#### 6 回路の簡単な説明

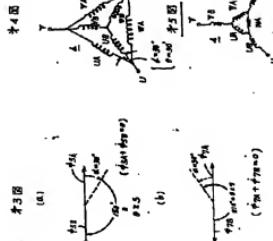
第 1 回路不動員の対象とする回路と併せて示  
したライアースメータの回路図、第 2 回路は不動  
員一方導線の回路図、第 3 回路、即ち動作説明の  
ためのペッキン回路、第 4 回路と第 5 回路はそれぞれ不  
動員の他の実験例を示す回路図である。

1: 駆動電源、2: 電源周波数、3: 駆動器出力  
としてのライアースメタ変換装置、4: 電流探知器、  
Ua, Va, Wa: A 分割器端子、Us, Vs, Bs: B  
分割器端子、5: 生成的な位相角、6: 時間的位  
相差。

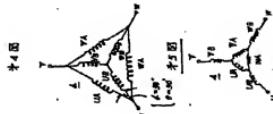
- 1 -



2 回路



3 回路



4 回路